

令和 6 年度第 3 回原村地球温暖化対策推進委員会 議事録

名 称	第 3 回原村地球温暖化対策推進委員会
日 時	令和 7 年 1 月 28 日（火）9 時半～12 時
場 所	原村役場講堂
出席者	小林光委員長、小松志穂副委員長、宮坂早苗委員、山田智史委員、雨宮一志委員、北田耕一郎委員、伊藤久人委員、平川拓洋委員、鮎川ゆりか委員 事務局 原村役場 建設水道課長 清水、環境係長 平出、環境係 桂 委託事業者 おひさま進歩エネルギー(株) (OSE) 蓬田、桜井、五十嵐
内 容	“カーボンニュートラルで紡ぐ美しい村”実現に向けたロードマップ（案）について
資 料	資料 1 “カーボンニュートラルで紡ぐ美しい村”実現に向けたロードマップ（案）

1. ロードマップ（資料 1p1～p2）について

【質疑応答】

- ・（小林委員長）CO₂削減目標の実現可能性についてどのように考えているか。
→（事務局）できるだけ実現可能性のある施策を選んだが、計画通りに実行できるかはわからない。
- ・（委員 A）施策の柱 1「美しい景観と調和した再生可能エネルギーの普及促進」では、太陽光発電の導入が中心である。太陽光発電だけが良いとは限らないので、他の再エネを導入することも検討したほうが良いのではないか。
→（事務局）「地球温暖化対策推進委員会による施策の効果検証」を毎年行うことになっている。国や県の情勢も鑑みながら、その都度計画の方向性を変えていくことが必要と考えている。
→（小松副委員長）毎年計画の見直しを行う、との文言はロードマップに必要なと思う。
- ・（委員 B）太陽熱や地中熱の利用について施策に追加することはできないのか。
→（事務局）国の施策では熱利用はあまり重視されていない。
→（委託事業者）太陽熱の利用は第 1 回、第 2 回の推進委員会で重点施策に入れない、という結果になっている。削減目標の不足分 210t は熱利用など資料 1 にはない施策で補っていく方針。
- ・（委員 C）CO₂削減目標の内訳では、削減量が国と県の施策で重複しているところはないか。
→（委託事業者）県の施策は産業・業務部門に限った施策となっている。国の施策である建築基準法は新築住宅のみとなるので重複しない。ただし、電力排出係数の低減は重複する可能性がある。

2. 施策の柱①について

【質疑応答】

- ・（小林委員長）FIT で販売された電気の非化石価値はどのように計算しているか。
→（委託事業者）原村に帰属するものとして計算している。FIT 終了後は原村に戻ってくるはずで、今後設置される太陽光発電は必ずしも FIT 売電するとも限らないので、そのようにしている。
- ・（委員 D）樅の木荘・もみの湯にバイオマスボイラーを導入した場合、燃料調達はどう样に行うのか。

→（事務局）来年度以降、茅野市や富士見町と協議をする方向となっている。

・（委員 D）「その他建物屋根への太陽光発電設備の導入促進」について、導入目標件数は 10 件/年とあるが、参照した情報では「FIT 制度開始後の 2014～2023 年度に原村で導入された平均件数 15 件/年」となっているが中央値は異なる可能性がある。年度毎の推移なども確認して目標値を決めた方が良いのではないか。

→（委託事業者）FIT 開始直後の件数が非常に多く、FIT 価格下がった近年では低調なため、平均値と中央値にずれがある。それを考慮して、10 件/年としている。近年の実績を考慮すると挑戦的な目標値と考えている。

・（小林委員長）ロードマップの進捗管理をする際の KPI は導入件数、容量のどちらを使うのか。

→（事務局）可能なら両方取得したい。

→（小林委員長）太陽光発電の場合は容量のみでも問題ない。施策によって異なり、議論に時間がかかるので、委員会後に役場で検討してほしい。

3. 施策の柱②について

【質疑応答】

・（委員 C）EV 充電スタンドについて、資料 1p2 では「EV 充電スタンドの拡充」、p4 では「公共施設への EV 充電スタンドの設置」となっている。書き方を統一したほうが良いのではないか。

→（小林委員長）それが良いと思う。

・（小林委員長）ロードマップ内の棒線の色分けの理由はなにか。

→（委託事業者）オレンジ色は村に関わる施策で、青色は住民・事業者に関わる施策。薄い色は検討段階の施策を表している。

・（小林委員長）「次世代自動車への転換推進」について、新車購入台数のうち EV 導入率 20%を目標としているが、県の目標は保有台数のうち 10%としている。どのような意図で目標を定めたのか。

→（委託事業者）新車購入台数の方が目標としやすいと考え、そのようにした。

→（小林委員長）CO₂削減量は県の施策とで重複していないか。

→（委託事業者）産業部門と運輸部門で集計が異なるため、重複して計算していない。

・（小松副委員長）「次世代自動車への転換推進」について、EV 導入台数 341 台を目標としているが、参照している県の目標値は貨物車を除くものになっている。村の目標は貨物車が対象となっているものか。

→（委託事業者）乗用車と貨物車の両方を対象としている。現在市場に出回っている車種を考慮すると、ほとんどが乗用車となると考えているが、貨物車も排除していない。

・（委員 F）街灯の LED 化は、「公共施設への省エネ機器（LED 等）導入」の対象となるか。

→（事務局）現状、ロードマップには位置付けていない。

→（委託事業者）公共施設や公用車に関する施策は、「原村地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」にある施策も含んでいるため、事務事業編に街灯の LED 化が施策としてあれば、対象の可能性があると思う。

4. 施策の柱③について

【質疑応答】

・(委員 G) HP での地球温暖化対策に関する情報発信は大事だと思う。村職員や住民に温暖化対策を行ってもらうには、対策による CO₂削減量がわかるほうが行動する意欲が湧くと思う。

・(小松副委員長) 職員の率先行動を PR することで、住民の行動変容につながるのではないかな。

・(委員 G) 先日他の自治体の視察で地球温暖化対策は環境部局だけが行えばよいという雰囲気になりがちだ、と聞いた。温暖化対策は庁内横断的な連携が大事で、それぞれの部局でできることを施策として取り上げることも良いのではないかな。

→(小林委員長) 大変良いアイデアだ。

・(委員 B) 「金山デッキの見学会」は住宅の脱炭素化について非常に勉強になる、という声が多いが、他の住宅の見学や脱炭素化の体験談を聞く機会を作るのも良いのではないかな。

→(小林委員長) 私の所有する金山デッキに限らず、ほかのエコハウスも見学するのは歓迎である。

・(小林委員長) 「環境貢献ポイント制度」はどのようなものを考えているか。

→(事務局) 現状では「原村総合計画」で検討することが決まっているのみで具体的な構想はない。

5. その他

【質疑応答】

・(小林委員長、小松副委員長) 区域施策編で 3 本柱の共通事項として掲げたカーボンニュートラル農業は原村にとって大事なものであり、資料 1 に追記すべきである。

・(委員 G) 目標達成に向けた計画の見直し・改善が重要。

6. 今後の予定について

・(事務局) 今回の推進委員会での意見を反映し、2/3 に庁内会議を行う。また、2/14 に議会全員協議会で報告する。

・(事務局) 2 月末から 3 月頭にかけてパブリックコメントを実施。